

【北水セ 23 霊峰富士 23 百メートルに集う クラス会 9 月 24-26 日

「富士山 5 合目散策と鍾山温泉（忍野八景）、西伊豆、堂ヶ島めぐりの旅」

生田博司（23 セ）

卒後はや 60 年、お互いの健闘・多幸せを讀たえ、かつ、命大事に未知の明日に向けてエール交換、共々の発展と幸多かれと祈念して一同に集いました。

さすがに参加者は残念ながらクラスメート 9 名とその妻君 3 名だった。

終戦の年に入学、配属将校から教練まで、またその 11 月には陸海軍・高等商船等からの転入生を迎え入れおよそ定数 2 倍の学生に膨れ上がった。

米がなく雑穀・薯類で飢えを抑えつつ、時に鯨場に実習等、苦勞して卒業、ただ財閥解体で勤め口なく、教員となって次世代に掛けた者も多い。

採用試験でも昭和 3 年生まれば“ご苦勞だったね、勤勞動員、戦後動乱の中、ろくに勉強しなかったクラスだよネ”と蔑みの中での就職だった。

しかし社会ではそれぞれ各界で刮目の働きをした。戦後、食糧輸入の原資ドル獲得が至上命令、総輸出額 500 億円（24 年）の内、水産物は重要輸出品に位置付けられ素晴らしい実績を挙げた。冷凍鮪・カジキ、缶詰、塩乾品、肝油、魚粉の輸出貿易最前線でクラスメートは命がけの仕事をしたと評価されている。

今日、かつての日本自立の担い手達はさすが自適の生活に入った者が多い。

今回、例会としては最後のクラス会、級友それぞれ“平均寿命を越えた余生をどう生きるのか”大いに語り合うか、いや高嶺の青空のように、歴史を刻んだその浄らかな伏流水のように“常住無碍”の境地にあるように見受けられた。

もちろんカラオケもあった、学生時代のエピソードも出たが、その心は人生のキャリアのみに見かける達観の人生観であると思われた。

写真は、富士山五合目
標高 2305 米標識

後列左から 山崎善種、
高橋ガイドさん、新谷淳
治、森脇惇、生田博司、
宮本栄昭、岡本栄二

前列左から 新谷夫人、

宮本夫人、山崎夫人、野村雅夫、鈴木慶典



【北水 38 期（22 卒）同窓会松山で開催】大山公男（22 ギ）

今回で 25 回を数えることになった会は、小笠原・片岡両君の連携によって、平成 20 年 10 月 16/17 日愛媛松山道後温泉に、本人 11 名家族 7 名が集まり、地元片岡夫妻の歓待を受けて開催された。また、隣県の高知市から佐藤敏彦君が卒業以来 60 年ぶりの初参加があり、今なお師について甲骨学・甲骨文字を研鑽している同君から、その一端の解説を得た事は予期せぬ収穫であった。2 日目は本四連絡高速道の一つ、西瀬戸自動車道（別名しまなみ海道）の瀬戸内縦断コースを北へ向かって半日観光し、ＪＲ新尾道駅に至って互いに固い握手を交わした後、名残を惜しんでの解散となった。

わが 38 期は、卒後 35 年の昭和 57 年に第 1 回目の同窓会開催、その 3 年後以降は北海道から九州在住の級友の協力により、持ち回りで毎年続けて来た。最盛時には同伴含め 70 名近い参会者を見たが、傘寿の坂に踵み入る頃より漸減となり、継続可否が検討されるようになった。そして 25 回目の今回は遂に 20 名を下回ることになり、当日参会者の同意を得て小笠原幹事長による『従来通りの形式による同窓会の終焉』が宣言された。ここに級友各位に報告すると共に、了承を紙上を借りてお願いする次第である。



後列左より

セ宇野 ギ松宮 セ佐藤 セ川上 ヨ船田 ヨ江渡 ギ米倉 ギ大山 セ片岡

前列左より

米倉夫 青嬢 青夫 セ青 ギ小笠原 片岡夫 ギ石田夫 小笠原夫 ギ坂入夫

【吾々心情・偲・青春之函館・薫風 6 月・朋友・高揚盃・卒後 51 年（昭和 32 年卒 同期会）】

伊藤 準（32 ソ）

あれは昭和 29 年の夏過ぎであった。洞爺丸台風が青函連絡船を襲い、其の被害がまだ修復されない頃、我々 32 年卒組は札幌の教養課程を修了して函館の水産学部に移転したのであった。七重浜には沈んだ連絡船から流出した日用品などが波間に漂流していたのを昨日のように覚えている。

それから数えてみたら 50 数年経った。本年（平成 20 年）6 月 23-24 日、緑風薫る函館にて在函の高野、横堀両君のお世話で同期会を開いた。両君は懇親会の司会・進行のほか、バスツアーの企画、写真撮影など、持っているだけの表わざ・裏わざ・気配りを駆使して尽力された。集まったのは写真（水産学部同窓会ホームページにも掲載・参照）を飾った 23 名で、一日目は湯の川プリンスホテル渚亭での懇親会、二日目は近郊を含

めたバス・ツアーと打ち上げ会であり前後にゴルフ大会も行なわれた。

豊かに実れる石狩の野に全国から集まって、横津の丘を彷徨った一同は白髪頭になりながらも、小泉君指揮、杉田君先導のもと都ぞ弥生と逍遙歌に、51年の歳月を一気に取り戻した。学生時代は専ら聞き役だった友が大の能弁家に変身し、かつての猛者は攻守逆転、しゃべらせて貰えず聞かされ役に回らざるを得ないなど51年の歳月は公平で粋な裁きをする。

特筆すべき事があった。バスツアーにて七飯の淡水実験所を訪問し、イトウやチョウザメの飼育状況を見学した折である。一同が驚いたのは立派な名前（正式には北海道大学北方生物圏フィールド科学センター淡水実験所であり水産学部だけのものではない）に比べて施設が真に貧弱であることであった。実験所の山羽教授の説明によれば飼育している冷水性淡水魚（さけ科魚類など）の種類や研究では国内でも誇るべきものであるとの事であり、施設名と飼育種からロシアやカナダ・アメリカ（アラスカ）など外国北方圏の研究者が期待を持って訪れてもおかしくない。まして、最近は地球温暖化で冷水性淡水魚の研究需要は高まっている筈である。日本周辺がこれら冷水魚の分布南限にあたる事に思いを致せば尚更である。

というわけで、続いて訪れた母校で出迎えた原水産学部長にバスを降りるや否や善処方を個々口々にお願いした。施設の名称・研究内容と現実の施設の貧弱さとのあまりに大きいギャップがそうさせたのである。云うべきときにはタイミング良くキチンとものをいうのはそう簡単なものではない。その点、実業畑に身を置いた者の発言には、51年間の実社会での活躍振りや生きざまが、滲み出ている。

多くの北洋漁船が出港した西浜岸壁付近も懐かしかった。と同時に金森倉庫付近も観光スポットに生まれ変わり、昼食をとった当別のジャガイモレストランなど新しい試みも見られた。函館は臥牛山からの夜景や十字街、元町近辺、五稜郭など多くの観光資源と共にどっこい生きているのであった。この辺が衰退した道内の他の港町と違う所である。

来年（平成21年）は札幌での同窓会総会にあわせて、また集まる機会を持つ事が島中君より提案され了承された。海外に居られる方を含め皆の健康を祈り再会を期したいと思う。

出席者名 小田（ギ）、小橋（ギ）島中（ギ）吉田（ギ）、池田（エ）、杉田（エ）、武藤（エ）、笠田（セ）、川村（セ）、小泉（セ）、進藤（セ）、牧野（セ）、増田（セ）、吉村（セ）、石田（ゾ）、伊藤（ゾ）、今井（ゾ）、倉本（ゾ）、高野（ゾ）、寺尾（ゾ）、藪口（ゾ）、山井（ゾ）、横堀（ゾ）

北海道大学水産学部昭和三十二年卒業・五十一周年記念同期会



3列目左から 杉田（エ） 倉本（ゾ） 武藤（エ） 池田（エ）
川村（セ） 山井（ゾ） 増田（セ） 横堀（ゾ）

2列目左から 笠田（セ） 小橋（ギ） 吉田（ギ） 藪口（ゾ）
石田（ゾ） 小泉（セ） 寺尾（ゾ）

1列目左から 伊藤（ゾ） 小田（ギ） 島中（ギ） 吉村（セ）
進藤（セ） 今井（ゾ） 牧野（セ） 高野（ゾ）

【新制遠漁三期最後のクラス会】 増田紀義（25 エ）

平成一八年開催のクラス会の折、参加人員の年々の減少に伴い「平成二〇年のクラス会を最後のクラス会として函館に集まる。」と言うことが決められました。

今年函館・江差周辺を五月二十日より二泊三日のクラス会を計画して皆さんに連絡しましたところ、在函の二名共に五名と誠に寂しい結果でしたが、実行することとしました。

昨夜来の悪天候で交通障害が心配されましたが、石橋・手塚・永田・永沼・鈴木は駅待合室で久しぶりの再会で話に夢中の様子です。進行係の増田が最後の到着でした。

予定時刻の一三時三〇分、ジャンボタクシーの女性ドライバーが北口に傘を持って迎えに来ました。永田は所用があって出迎えのみに駅に来てくれましたので、ここで別れました。いよいよ小雨の中、恵山に向けて出発です。

しばらくの間、お互いに健康状態など話していましたが、一杯やりながら欠席者の話が出て采ましたので、欠席者の近況報告を皆さんに披露しました。簡単に病状が書かれていますが、その治療は大変な事だろうと想像しました。奥さんの看病の方も幾人かいました。

恵山は麓はツツジが見事に咲いていました。記念撮影をして頂上を目指しましたが、視界不良のため次の目的地鹿部の間歇温泉公園に向かいました。

待つこと暫し、見事な吹き上げをカメラに収めて江差の宿に向かいました。

宿の主人に「内地から来た年寄りの親睦会なのでサービス方よろしく」と前もって頼んでいた故か、思いもかけない海の幸に大満足で宴は大いに盛り上がりました。話題は尽きません寮生活・誰彼の噂・様々な失敗談。深夜に及び本日の喋りを終了しました。

二日は天候も回復してよい観光日和となりました。当日の予定と「江差の旅」案内板を見て皆で行き先を決めドライバーと時間の割り振りを相談して、見学先を巡ることとしました。開陽丸・横山家・江差追分会館・いにしえ街道・姥神神宮を記念撮影しながら巡り函館に向かいました。

水産学部の見学は予め申し込んでおきました。百周年記念事業で整備された水産科学館に感心しつつ見て回りました。昔正面玄関に置かれた大きなトドの剥製は皆覚えていました。建築物も見覚えのあるものは講堂だけでした。職員に案内をお願いして管理研究棟の屋上で記念撮影をして退去しました。



写真説明：管理研究棟の屋上
左から、鈴木・石橋・増田・永沼・手塚

西部地区を車中からドライバーのガイドでザーと見て回りホテルに入りました。

ホテルは宴会場が設けられていて当夜も大いに盛り上がり、最後の時を惜しむかのごとく延々と続き話の種もいろいろ飛び出して来ました。

二日は函館のお決まりのコース、トラピスチヌ修道院・五稜郭タワー・函館山を同じジャンボで回り、昼食を駅二階の食堂にしました。五名での最後の同窓会でしたが別れの挨拶で「何時迄も元気で。もう会うことも無いかも知れないな。」と互いに握手したときには胸にジーンと来ました。

【昭和 35 年卒 同期会 盛会裡に！】

事務局 小祝良介（35 エ）

世話人代表 梅田芳昭（35 ソ）

平成 20 年 9 月 25 日、函館湯の浜ホテルに 35 名の参加をえて同期会が行われました。物故者（19 名）への黙祷のあと、大森信君の乾杯で宴がはじまり湯の川芸者衆の芸能披露もまじえて、旧友同期の懐かしい楽しい語らいのひとときを過ごすことができました。横山文男君の音頭で「都ぞ弥生」を、平野亮一君の音頭で「逍遙歌」を斉唱し、瀬戸山幸男君の閉宴の挨拶で終わりました。次の同期会は平成 22 年、札幌開催の予定を確認しました。次回は卒後 50 年の節目の同期会となります。各位健康に留意され、2 年後に札幌でお会いしましょう。



前列左より

鹿討治雄（セ）、横山文男（エ）、山田稔（セ）、吉崎勲（ソ）、成田信之（エ）、新田寛（エ）、津田和成（エ）、平野亮一（セ）、井上忠雄（セ）

2 列目左より

瀬戸山幸男（セ）、坂本輝行（セ）、東幹也（セ）、谷口滋穂（エ）、久保治良（エ）、土田健治（ソ）若杉康（セ）、小長谷善高（ギ）、高間浩蔵（セ）、小祝良介（エ）

3 列目左より

梅田芳昭（ソ）、伊東尚彦（エ）、岡部隆義（ソ）、成田広一（ソ）、粟津健太郎（ソ）、下村軍治（ソ）、佐々木健（セ）、古川原仁（ソ）、大森信（ソ）、鈴木譲（セ）、松井敏夫（セ）

4 列目左より

山本弘敏（ソ）、大嶋照（セ）、増尾英明（セ）、大島正吾（セ）、守屋桂二（セ）

【昭和37年卒業8回同期会・函館】 沢井佳保 (37エ)

昭和37年卒の第8回同期会は平成20年9月7日、函館市の湯の川プリンスホテル「渚亭」で開催されました。

2年に1度の同期会は、札幌市からの母校の地・函館に受け継がれ幹事役の河村君（ゾ）、沢崎君（同）、古井君（同）、麦谷君（同）、山近君（ギ）、大割君（同）、絵面君（セ）、泉君（エ）の企画、おもてなしに感謝しつつ、雲海の間で再会をよろこび合いました。

「遠路はるばる、ようこそ!」、泉君の開会あいさつのあと物故者に黙祷し、2月27日に東京の林 嵩君（ギ）が亡くなられ、紀子夫人からのメッセージに心を打たれながら、23名の故人の冥福を祈りました。

続いて幹事代表の河村君のあいさつ、荒井君（ゾ）の乾杯音頭で宴会に入りました。

今回参加できず、返信に近況を寄せてくれた45名のメッセージもなつかしく、恒例の各人現況報告に移りました。

古希を前後にしてボランティア活動に精出すもの、中には第一線で活躍中のもの、お孫さんの話、また今年奥さんに先立たれた大屋君（エ）から「失ってしみじみと妻のありがたみがわかりました。皆も大事にしてほしい」と実感のこもったあいさつもあり、欠かさず夫人同伴で出席する三好君（エ）夫婦のむつまやかさを間近にして、身につまされる思いがしました。

イカのまち函館とあって、幹事役から別途イカ刺しの差し入れもあり、渚の夕げを堪能し、宴たげなわにして円陣を組み、小島君（セ）の前口上で「逍遙歌」「都ぞ弥生」の寮歌を声高らかに斉唱し、しばし青春のひとつときにひたることが出来ました。

最後に第9回同期会の開催地を引き受けてくれたねぶたのまち青森県の菅野君（ゾ）が締め乾杯を行い、歓談かつ盛会のなか、存分旧交を温め合うことが出来ました。このあと2次会、3次会の集いもあり、漁火の夜を背景に語り合いました。

翌日は元学部長の絵面君（セ）のはからいで、昨年創期100周年を迎えた母校を訪れ北大大学院水産科学研究院・大学院水産科学院・水産学部改編されたキャンパスを見学し、国際的に貢献できる人材の養成やマリンフロンティア研究棟、マリンサイエンス創成研究棟など地域社会と融合した学術・研究の学び舎をめざす北水の革新を朋に感じながら、2年後にはより多くの仲間に出会えることを楽しみに散会しました。



参加者は漁業学科の大山 満（堺市）、大割 了（函館）、又井一宣（青森）、山近則夫（函館）、遠洋漁業学科の五十嵐憲治（上尾市）、泉 滋（函館）、大屋厚視（千葉）、沢井佳保（石狩）、三好善文（夫人同伴・川崎市）、増殖学科の荒井城一（名古屋）、和泉博邦（札幌）、太田 勲（北広島）、小野里 坦（長野）、河村章人（函館）、菅 紀元（釧路）、菅野溥記（青森）、小関賢悦（川崎）、沢崎達孝（函館）、中村寿孝（室蘭）、平木紀久雄（千葉）、古井恒弘（函館）、麦谷泰雄（函館）、宮本善樹（千葉）、吉野生壮（三木市）、製造学科の絵面良男（函館）、大西喜代治（千葉）、川向国正（札幌）、小島杏介（船橋市）、斉藤俊夫（東京）、秀里尊寿（札幌）、福田義治（泉南郡熊取町）の計32名でした。

【北水 43 年卒 40 周年記念同期会】 田島研一（43 食）

昨年 10 月 14 日紅葉の始まりかけた函館で、卒業 40 周年記念の同期会を函館で開催しました。前回 3 年前の東京での同期会以来、小坂氏（増）と寺地氏（食）が亡くなられましたので、開宴前に全員でご冥福をお祈りしました。病気を患って欠席の方もおりましたが、42 名もの方々に出席いただき、大原さん（増 9）の乾杯の音頭で宴に入り、秋の夜長を美味しいものを食べて、大いに飲んで語り合いました（話題は、学部時代のことは然ることながら、年も年ですので病気のこと、飲んでいる薬のこと、孫の自慢話などが多かったようです）。宴会の司会をお願いした横堀氏（漁）の巧妙な話術に座も和み、最後は肩を組み合って輪になり「寮歌」を歌って（皆さん学部時代の一時期を頭に思い浮かべていたことなのでしょう）、菊川氏（遠漁）の閉めの乾杯で宴会を終了。一次会でダウンしたもの、病後あるいは術後で身体を気遣っている方数名を除いて大多数が二次会に移動。ここでは窓外の海面に映える漁火もそっちのけでカラオケをやりながら、その声に負けじと大きな声で語り合い、終了のアナウンスにも不満顔気で尚しばらく笑い声が続きました。

北大水産学部 43 年卒業 40 周年記念同期会



静かな波の音に目覚めた翌朝は、感激の晴天。静かな海面の向こうに下北半島、もちろん右手には函館山。皆さん記憶に残る朝を迎えてくれたことでしょう。最上階露天風呂に寝不足と多少酔いの残る身を沈め、幸せも感じて頂けたことと勝手ながら確信させていただきました。朝食後はゴルフに出かけるもの、早い便で帰京するものと徐々にホテルを後にした。チェックアウト後 13 ～ 4 人がホテルのバスに送られて学部訪問。管理研究棟の屋上から様変わりの構内を見てもらいました。“北洋研は？”、“あれグラウンド、野球やったんだよな”、“回遊水槽は？”と、ここでも昔の記憶と結びつけて感慨深げにあちこちと目を向けていたようでした。代表幹事の水戸氏はじめ幹事の皆さん御苦労さんでした。次回の同期会は、3 年後静岡県に決まりました。元気でできるだけたくさんで参加しましょう。

【アラスカで環境事業を展開】 茅野 徹 (51 化)

私は、昭和 51 年北大水産化学学科卒の茅野徹と申します。

現在アラスカに住んで、Pacific Rim Services, U.S.A. を約 10 年前に創設し、環境コンサルタント会社を経営しております。代替エネルギーの開発・試験・普及、及び、汚染された地下水・土壌浄化技術の紹介・現場浄化、等、自然から学ぶ仕事をアラスカから展開しています。

妻 (Mitzi: 光代) は、マクロビオテックのリーダーシップコースを去年マサチューセッツ州で修行し、健康食を含め、健康に生きる勉強・実践を行っています。

新年心を新たにして新しいビジネス構築に励もうと思いますので、こちらでお役にたてる事がありましたらご連絡下さい。

年末は仕事も兼ねてケンタッキー州を経て、フロリダ州に来ていました。12 月 31 日にフロリダから列車で 28 時間半かけてペンシルバニア州のフィラデルフィアに行く途中で、今年の正月は列車の中から初日の出を拝みました。米国の南部の町を味わって来ました。その後ペンシルバニア州の West Chester で 1 月 9 日まで仕事をして、1 月 11 日にアラスカに戻りました。アラスカもその頃には日が長くなってゆくのでもう極寒ですが気分が良くなります。1 月末から 3 月末頃が一番オーロラの出る季節になります。

アラスカにある我が家から車で北に 5-6 時間くらい行った所に秘境の露天風呂がいくつかあります。極寒のアラスカで露天風呂に入ってオーロラを見るのもいいものです。我が家からのオーロラが見えます。

大手旅行会社は JAL のチャーター機を使ってパッケージ旅行をやっていますが、私は誰も行かない大自然の中にある秘境温泉が好きです。ちょっとしんどいですが、自然を理解できる冒険心のある方には最適です。又、我が家をベースにアラスカの北の辺地にも行けます。知

り合いの写真家も我が家によく泊まりますが、彼は北極圏までオーロラを取りにゆきます。我が家はアラスカ州立公園の中にあり、電気・電線がありません。ここで生活するには基本的に自給自足の考えです。アラスカの生活体験ができます。

2009 年版の“地球の歩き方 (アラスカ編)” に私達の記事が載りました (218 ページ)。まだ家もできていないのに、記事の内容の一部に誤りがありますが見て下さい。添付します。

皆さまのお知り合いにもご紹介下さい。北水の方々にもアラスカに来て頂きたいと思います。

これからアラスカベースの仕事も増やして行きたいのですが面白いアイデアがありましたら教えて下さい。私達のアラスカのプロジェクトの投資家も探しています。

去年の夏には日本の学生が 5 名来て、家の建設、薪割り、風力発電設置、溝掘り、道路建設、トレールづくり、等々をボランティアで手伝ってくれました。彼らにとっても通常経験できない生活ができ喜んでいました。現在知り合いの応募者が出てきて来年以



アラスカの初霜～我が家のデッキから見える
北米一高いマッキンレー山 (約 6,200 m)



我が家の太陽光エネルギー設備

降も続きそうです。

又、3食寝床付きで家の建設を手伝ってくれる日本の大工さんを探してます。ボランティアになりますアラスカの自然が好きな大工さんがいましたら是非紹介下さい。

今年の北大のおしよ丸は、この春・夏にベーリング海に調査にまいります。私も研究員（環境コンサルタントの立場）として乗船を予定しています。

宜しくお願いします。

追伸：我が家のデッキから見えるマッキンレー山（北米で一番標高の高い山：約6,200 m）の写真を添付します。

（連絡先）

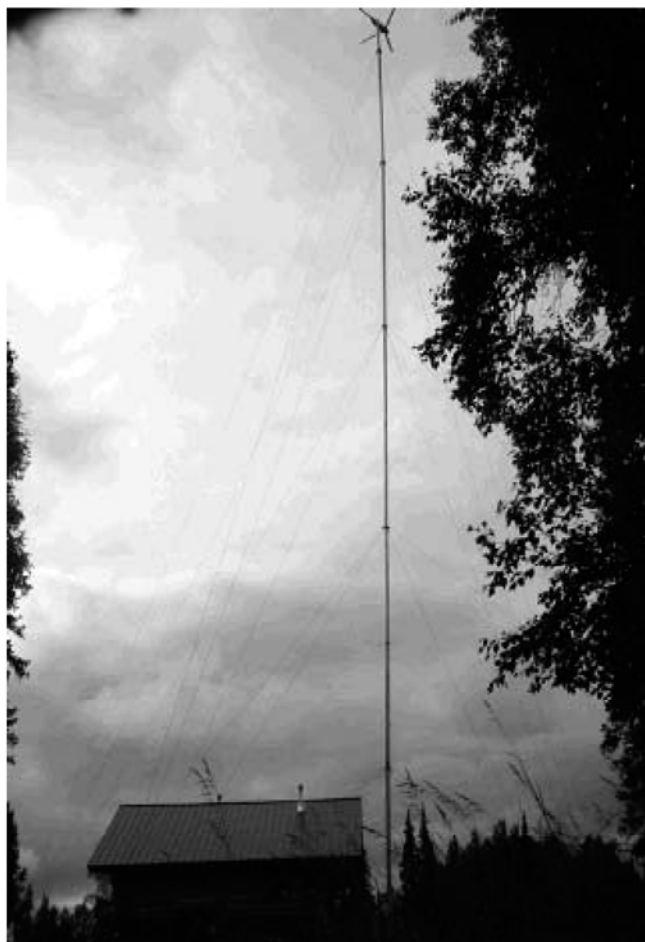
茅野 徹

President of Pacific Rim Services, U.S.A.

P.O.Box 13455, Trapper Creek, Alaska 99683 U.S.A.

Telephone Number: 907-841-7734

E-mail: toruchi@muf.biglobe.ne.jp



我が家の地上30mの風力設備



アラスカの夏～我が家から見えるマッキンレー山とヤナギラン

デナリ国立公園とその周辺 ● デナリ国立公園

アクティビティ
ここに紹介するアクティビティは、掲載の電話番号のほかアンカレッジやフェアバンクス旅行会社でも予約を受け付けています。

ウィルダネスツアー
人気のあるツアーなので、あらかじめ下記のサイトでオンライン予約をしておくのが望ましい。
Doyon/ARAMARK
TEL(907)272-7275
TEL(1-800)622-7275
WEB www.reservedenail.com

アクティビティ

ACTIVITIES

**★園内を巡る観光バス、ツンドラ・ウィルダネスツアー
Tundra Wilderness Tour (5月下旬～9月中旬)**

シャトルバスでワンドラー・レイクまで行く時間のない人には、ツンドラ・ウィルダネスツアーに参加することをすすめる。大型バスに乗ってマッキンレー山とアニマルウォッチングを楽しむ日帰りツアー。ドライバー兼ガイドが、行く先々で出会う動物や咲き乱れる花々、厳しい大自然の話などを解説するのを楽しみながら、マッキンレー山の眺望が素晴らしいストーリー・ヒルまでの行程を楽しむ。ムース、カリブー、グリズリー、バブ、ドールシープ、マーモット、ホッキョクジリス、ライチョウなどさまざまな野生動物に出合えるチャンスも多い。

ツアーの出発時間は早朝5:00～7:30、13:30～15:30(時期により異なる)の2便で、所要時間は6～8時間(ピークシーズンは4～5時間)。料金はスナックボックス付きで\$93.50。

なお、途中でたくさんの動物に出会えた場合、スケジュールが大幅に遅れることがある。シャトルバスと違ってツンドラ・ウィルダネスツアーのバスは列車に接続できるように調整するため、ストーリー・ヒルまで行かず引き返すことがあるので覚悟のこと。



COLUMN マッキンレーを見ながら環境問題を考える

マッキンレー山の南麓、デナリ国立公園内にあるログハウス。ここは環境コンサルタントである日本人夫妻が建てた実験場だ。彼らは電気や水道もない未開の土地で、ソーラーや風力、ディーゼル発電機で電気を作り、微生物を使ったシステムで浄化した地下水を生生活用水にして、環境に優しい生活を実践している。

ログハウスは宿泊施設を備えており、希望すればマッキンレーの眺めをひとり占めできる部屋で寝泊まりすることが可能だ。不便といえは不便だが、大自然に囲まれたこの土地で、電気や水道の消費量削減やリサイクル、物質の最小限の消費など、日本で生活しているときにはあまり意識しない、さまざまなことが体験できる。

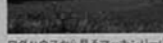
もちろん部屋はシャワー、トイレ付きで、不便といっても、充分快適に過ごせるし、敷地内の湿地にはムースやブラックベア、オオカミなど、さまざまな動物が姿を見せてくれるので、動物好きの人にとっては、人の多い豪華なリゾートホテルよりいいかもしれない。

場所はタルキートナから1

時間器、マッキンレー・プリンス・ロッジの近くなので、車があればそれらの場所からさまざまなツアーに参加が可能。もちろん建物の周囲の自然で、手軽に本物のアラスカを体験することもできる。前もって頼んでおけば、マクロビオティックの研究者である夫人がオーガニック料理を用意することも可能だ。

建物は現在も建築中で、部屋にもよるがひと部屋、朝食付きで\$150ほど。薪割りや敷地内のトレイル作りなど、家造りを手伝えばディスカウントもありとのこと。環境問題も考えるだけでなく、アラスカの開拓者の体験もできる貴重なチャンスだ。宿泊等についての詳しい情報は、下記に直接連絡してみよう。

Pacific Rim Services, U.S.A.
Toru Chino
P.O.Box 13455, Trapper Creek,
AK 99683
TEL(907)841-7734
E:toruchi@muf.
biglobe.ne.jp



ログハウスから見るマッキンレー山



敷地内にあるソーラーパネル

【第5回世界水産会議第8分科会のご支援に対するお礼と会計報告】

国際漁業研究会会長 松田恵明（41 ヶ）

「第5回世界水産会議」に際し、北水会の皆さんにご協力いただき本当に有難うございました。水産経済関連学会の一つとして、全世界を相手に日本の情報発信源となっている国際漁業研究会は2008年10月には横浜で開催された第5回世界漁業会議(WFC)第8分科会を担当し、東京海洋大学の小岩信竹先生を中心として取り組みました。私も実行委員としてご微力ながら協力させていただきました。4年に一度開催されるWFCの今回の開催は、日本水産学会が中心となって日本で開催された過去最大の国際大会でした。当日の参加者は57カ国1199名（国内762名、海外437名でした。内皆様方からご支援いただきました社会科学を中心とした第8分科会には、19カ国70名の発表があり、内34名は海外からの出席者でした。ご支援誠に有難うございました。誌上で厚く御礼申し上げます。

国際漁業研究会からの支援は、途上国（バングラダッシュ、ブラジル、チリ、インド、インドネシア、ナイジェリア、フィリピン、ソロモン諸島、タイ、パヌアツ）からの参加者を中心に19名に及び、議論をリードし、非常にバランスの取れた質疑応答がありました。21世紀の『海の時代』の水産学を考える場合、自然科学も社会科学も同時に一緒に考えなければならない時代にはいってはいはじめての快挙でした。



全体会議でのPEMSEAのThia-Eng Chua博士の沿岸の賢い利用のためのインテグレーションの重要性を訴えた「A Tale of Two Initiatives: Integrated Coastal Management in Xiamen and Batangas Bay Region」と英国のThe Mother and Child FoundationのMicheal A. Crawford博士の水圏動物が持つ不飽和脂肪酸とヨウ素を多く含む海産物こそが、人間の人間たる所以である脳の形成に欠かせず、「人類が繁栄するためにはAgriculturing Oceans：水産が必須だ」と訴えた報告が光っていました。

現在、人類がこれまで経験をしたことのない世界同時不況の中、燃油高騰・過剰投資・資源状況の悪化・環境の劣化で、水産業は大変な状況にあります。その中で、かつて水産王国を自他共に認めた歴史を持つ日本の水産系大学こそ定見を提示し、時代を導くことが期待されています。水産科学は、過去のものではなく、これからの総合科学であり、いまはそのチャンスです。北大水産学部は、その自然的・地理的・歴史的特長を活かし、21世紀の「海の時代」の牽引車となって欲しいと願っています。北大水産学部頑張れ！

第5回世界水産会議第8分科会会計報告（単位：円）

収入の部

本部からの助成金	900,000
寄付金	965,000
合計	1,865,000

支出の部

財政支援（19名）	
日本人（5名）	340,000
外国人（14名）	1,310,000
募金費用	42,207
アルバイト1名	15,000
手数料	11,130
その他（会場使用料）	6,300

合計

バランス	140,363
JIFRS への寄付	140,363

最終バランス

0

【海の森づくりの重要性】 松田恵明 (41 ヶ)

URL:<http://www.uminomoridukuri.com>

uminomoridukuri@yahoo.co.jp

私は昭和 41 年に北大水産学部増殖学科を卒業後、米国に留学。昭和 55 年に帰国し、鹿児島大学国際海洋政策学講座に赴任。平成 17 年 3 月に定年退職。以後、国際漁業研究会 (JIFRS) 会長並びに NPO「海の森づくり推進協会」代表理事としてボランティア活動に専念してまいりました。国際漁業研究会は、隔年に世界各国持ち回りで開催される世界漁業経済会議 (IIFET) の第 12 回大会 (IIFET2004Japan) をホストし、水産年鑑にも中央団体として認知されております。JIFRS 山本賞が IIFET2004Japan の時に創設され、以後毎年国外と国内に分けて 1 人平均ずつにその賞を授与しています。IIFET においてもそれは高く評価され、また、期待されております。一方、NPO「海の森づくり推進協会」は、草の根の内閣府認証の NPO ですが、これは 1994 年の故郷一郎先生 (平成 6 年度鹿児島大学水産学部客員教授)・東町漁業協同組合との共同研究「鹿児島県における沖合養殖に関する研究」におけるマコンブの大規模海中林造成試験の成功の延長線上にあります。私達は、この試験で、日本の沿岸域で 500 万トンから 700 万トンの海藻栽培は可能であり、それが実現すれば、沿岸の漁獲量は倍増し、1 兆円規模の雇用を含む経済効果もたらすことも不可能ではないと信じるに至り、今日に至っています。しかしながら、「このままでは日本の水産が沈没するだけでなく、日本が沈没するという危機意識から起死回生を目指した私達のアプローチは、これまでの政府主導のアプローチとは補完関係にあります。草の根アプローチ故、財政的に非常に厳しい状況にあります。

一方、昨年 10 月に、日本で初めての大規模な水産に関する国際会議「第 5 回世界水産会議」が開催されました。その全体会議で、英国の母子基金の Micheal M A Crawford 博士は、「人間の人間たる所以は脳であり、水圏動物の不飽和脂肪酸と海産物に含まれるヨードがその脳の正常な発達に欠かせない。Let's agriculturing oceans.」と言って人類の繁栄にとって欠かせない「水産」をもっと大切にしようと呼びかけました。これは 2 つの意味でショックでした。1 つ目は、海産哺乳類の保護を主張し、水産の凋落を経験してきた英国の中に、このような意見を訴え続けている人たちが居るということを知ったことです。2 つ目は、博士の考えは、私達「海の森づくり推進協会」の考えと全く同じであるということです。

そこで大きな疑問は、「今の日本や日本の水産系大学が、果たして現在とっている方向を大転換し、21 世紀の「海の時代」の旗手としての役割を果たせるか」ということです。そこで、日本の水産界ではこれまで軽視してきた「海の森づくり」について再度皆さんと一緒に考えさせていただきたい。共鳴される方は是非ご一報下さい。



【海の環境の現状】日本沿岸の藻場面積は昭和 53 年から平成 10 年までの 30 年間で 21 万ヘクタールから 12 万 5 千ヘクタールへと 4 割減少し、その後も減り続けている。海水温の上昇・嵐による海水の攪乱・食害・土砂被膜等天然であれ人為的であれ何らかの原因で、藻場が存在していた海域で大型海藻がなくなった現象を「磯焼け」と言い、その現象が全国的に広がっている。昭和 20 年当時の沿岸漁業の水揚げ高は約 200 万トンだったが、平成 18 年の水揚げ高はその 73% (145 万トン) に過ぎない。沿岸海域の水産資源の減少は危機的であり、これには、漁業者の自己責任の範囲を越えた国民全体の責任がある。

【海の森づくりの重要性】海藻の養殖生産量 (湿重量) は、中国では年間 1 千万トン以上で、それが年間 1 千万トン以上の海面捕獲漁業生産量に繋がっている。一方、かつて海を拓き世界の海を駆け巡り水産王国を自負し、栽培漁業を重視してきた日本の海藻養殖生産量は、現在、たったの 50 万トンである。行過ぎたグローバル化の中で日本は水産物輸入大国となったが、沿岸漁業や海藻の海水浄化作用や増殖効果を軽視してきた。現在では、遠洋漁業や沖合漁業に比べて比較的経営が安定しているといわれる沿岸漁業の生産性も依

然低く、殆どの漁村は後継者も確保できず過疎は進み、起死回生を迫られている。

陸の資源の有限性が顕著になってきて、海洋資源の重要性が脚光を浴びている。「日本人の海との歴史的関わりとともに、日本は四方海に囲まれ、南北に約 3,000km に伸び、地球一周の 85% を占める 35,000km の海岸線を持ち、その津々浦々に漁協はじめソフト・ハード両面の水産インフラをもった漁村があり、その排他的経済水域は 447 万平方キロと世界で 6 番目に広く、その中には世界の 3 大漁場の一つが含まれている。」という海の利用に関する日本の比較優位性は世界的に見ても明らかである。日本の将来は、この特徴を生かせるかどうかにかかっている。「21

世紀は海の時代」と言われ、海洋開発産業が注目をあびているが、採算面、環境面、作業面、技術面、制度面等で多くの問題を抱えており、これらを克服するためには莫大な投資が必要で、それを支える国民的サポートが必要である。

そこで、注目されるのが、水産業の根幹であり多面的機能をもつ沿岸漁業の振興と漁村の活性化である。これらは比較的小額の適切な投資で、既存のインフラが活性化され、手っ取り早く国民へのアピール効果が期待されるからである。沿岸漁業は「水圏と陸圏との架け橋」としての水産物の安定供給や自然環境保全のみならず、海難救助や国境の監視といった国民の生命・財産の保全、辺境における雇用や文化・レクリエーションの創出・継承産業として「沿岸地域の社会経済セーフティネット」に、医薬品開発や海の多目的利用等を含む「教育研究福祉開発」に、さらに、徹底した平和外交とバランスの取れた国づくりを目指す「国家総合安全保障」に貢献する。

さらに、いま、伝統的な海のしきたりを近代法制の中に取り入れた日本オリジナルの「漁業法」と行政機能を備えた「漁業協同組合」が世界的に注目されている。それは、これまでの欧米を模範とした 200 海里以降の市場経済中心の水産政策がどこも過剰投資や高級魚の乱獲・環境問題・信用問題等に直面しているからである。そこで日本に期待されているのは、これらの問題を解決する「海の時代」のモデルの提示とリーダーシップである。

残念ながら、日本人のライフスタイルの変化により、今では、漁業は 3 K（汚い、きつい、危険）産業の代表となり、漁業就業者は減り続け、平成 19 年には、20 万人となり、後継者問題は深刻である。このままでは、世界に「海の時代」のモデルを発信することは出来ない。沿岸漁業が活気にあふれ、国民が期待する多目的機能を十分に発揮するためには、漁家の可処分所得を、年間 1 戸当り 1 千万円以上にする必要がある。低コストで生産性の高い沿岸漁業や養殖業を盛んにするためには、国民的サポートを伴う漁民の発想の転換が必要である。その漁民の発想の転換に貢献するのが、漁協中心の「海の森づくり」である。「海の森づくり」は、前浜の状況を一番知っている漁民が、漁業法・水産業協同組合法および共同漁業権の精神に則り「考える漁民」となり、社会貢献を目指して、適性規模の藻場・海藻養殖を維持し、市場価値の高い根付資源を上手に管理・販売し、ゼロエミッション養殖を推進し、沿岸の資源を回復するための最も効果的な道具である。「海の森づくり」には、関西空港藻場に見られるようなハードな海洋構造物の構造改善によるもの、東京湾のアマモ場造成のような移植によるもの、投石や付着基盤の添加によるもの、施肥によるもの、それに中国のように養殖によるものなどがある。

現在、外来種あるいは準外来種（在来種であっても、元来生息していなかった種）の新規の導入については、十分に注意を払う必要がある。海の森づくり推進協会では、北のマコブの冬季（12 月 - 6 月）養殖を鹿児島県、長崎県、愛媛県など南の海で海中林造成のために奨励している。コブの養殖は中国では 70 年以上、長崎県島原市や東京湾では 40 年以上の歴史があり、私も既に平成 6 年以降 14 年間観察をつづけてきたが、これまで環境的な悪影響は出ていない。また、海の森づくり推進協会が勧めている施肥は、海中で海藻の成長制限要因となっている微量元素の一つ鉄分を主成分とする遅効性施肥材の散布で、その効果は 3 - 5 年継続するものである。津々浦々で環境が違うので、それぞれの漁協で試験し、その結果、各漁協の自主的な判断で採否を決めるものである。この施肥は、産業廃棄物の海上投棄のような無責任な行動ではなく、「藻場再生」というはっきりとした目的を持ち、施肥後も注意深く追跡管理され

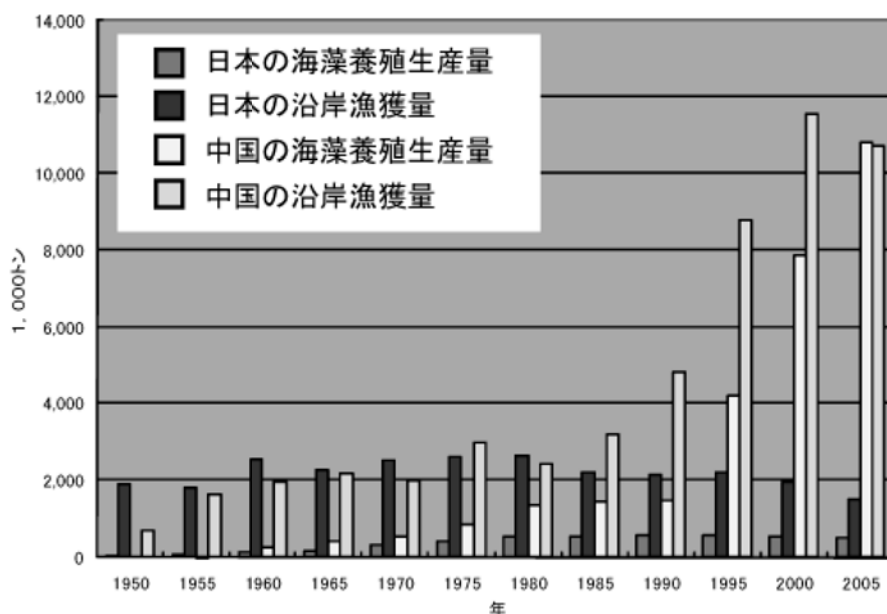


図1. 日中の沿岸漁獲量の推移：1950-2005

出典は、FAO の水産統計（Online2008.12.20）

るものである。(http://www.kaichurinn.com 参照)

【藻場の効果】第1は窒素・磷・炭酸ガス等の吸収と酸素の供給による「海洋環境の改善効果」である。富栄養化の原因としての窒素・磷などの栄養塩や炭酸ガスは、海藻が収穫され利用されると完全に海中から取り除かれる。その他の場合も海水中に残ったものは、最終的には単細胞のデトリタスとなり、いずれ閉鎖系食物連鎖の一環に取り込まれるか、あるいは、水温の低い海底に沈んで、分解されずにそのまま長期間保存される。一方、浜辺や海岸に打ち上げられたものの利活用は今後の課題である。

第2は「不特定多数の魚介類への産卵場並びに揺籃場の提供による有用魚介類の増殖効果」である。これらの魚介類は、藻場を産卵場や揺籃場として成長し、最終的に有用魚介類の増殖に繋がる。他方、これまでの栽培漁業は、有用魚介類の放流に力を入れてきたが、その効果がホタテやマダイやサケを除いてははっきりしていない。そこで、十分に発達した藻場と組み合わせた種苗放流であれば、もっと放流効果が上がると考えられる。

第3は、「不特定多数の在来種の生物多様性を促進する効果」である。水質汚染と富栄養化、埋め立てや垂直護岸・人工海岸等で単純化した沿岸域の生態系を多様化する数少ない方法の一つが、藻場の再生である。海水中には、数え切れないほどの小さな生命が含まれている。これらは、付着基盤との出会いを求めて海水中に浮遊しており、運がよければ、タイミングよく藻場で付着基盤に出会い、そこから新しい生命が再発し、在来種の生物多様性を育む。付着基盤に出あうことがなかった小さな生命の多くは死亡する。

第4は、「生産物の利活用効果」である。食糧・医薬品・餌料・肥料・バイオ燃料・二酸化炭素吸収源・海藻化学工業原料等大型海藻の利活用分野は無限である。

第5は、収入増や雇用増に繋がる「経済効果」である。特に、仕事がない辺境地域での里海づくりや漁村再生は現在の日本社会が抱える最重要課題である。

【漁業・養殖業との関わり】産卵場や揺籃場としての藻場を失った沿岸海域では、回遊性の浮魚の来遊が短期的にあっても、栽培漁業の放流効果や根付資源などを期待することは出来ない。また、集約的なタイ、ブリ、カンパチ、クロマグロなどの海面での魚類養殖業では、湿重量換算で体重の7-10倍の餌を必要とし、魚類養殖の伸びとともに、富栄養化など魚類養殖による自家汚染が問題となってきた。そこで、鹿児島県東町漁協では、平成15年度から魚類養殖面積と海藻養殖面積を1対1の割合とする漁場改善計画を実施している。

これからの日本の漁業は、しっかりした沿岸漁業をベースとして、沖合・遠洋漁業を考える時代となった。しっかりした沿岸漁業の要は、水産生物の生息環境である藻場や干潟や底質・水質の管理にある。これは、漁業権管理組合としての現漁業協同組合の責任でもある。これからは、研究は国や県任せではなく、漁民一人一人が、研究者になる覚悟が必要で、漁協にも研究対応が期待されている。国や県の研究者の管轄域は広く、予算的制限もあり、個々の前浜のことを詳しく研究する余裕など元来ない。漁協の仕事として「研究」をしっかりと位置付けている北海道猿払漁業協同組合では、5年先のホタテの漁獲量を自分達で推定できる状況の中で操業しており、漁家1軒当りの貯蓄は1億円、組合員一人当りの可処分所得は年間2千万円という。ここでは後継者問題も無く、同様の漁協が日本の辺境オホーツク海や根室湾に面して沢山ある。

【海の森づくりの事例】海の森づくり推進協会の「海の森づくり事業」の主役は、マコンブの種系の斡旋と海洋施肥材の共同試験である。平成14年の創設以来、マコンブの促成栽培種の種系を長崎県、鹿児島県、愛媛県、富山県、神奈川県、千葉県、福井県、三重県、福岡県、石川県、香川県等からの希望漁協・企業・地方自治体・学校・個人に斡旋して来た。さらに、平成17年から、当協会会員が開発した海洋施肥材の漁協との共同試験を実施してきた。現在、共同施肥試験を実施中の漁協は、長崎県壱岐東部漁協、愛媛県遊子漁協、鹿児島県東町漁協、長崎県上対馬漁協、千葉県西坪漁協である。

平成21年度には第3回こんぶサミットが企画されており、漁協組合長の交代を契機に海女の里を蘇らせた長崎県壱岐東部漁協の活動と漁民だけでなく、小・中・高校・地方自治体を巻き込んだ市民活動として「海の森づくり運動」を展開している「宇和海に緑を広め環境を守る会」の活動をオブショナルツアーとして見学する計画を立てている。宇和海の活動は平成18年度には、愛媛県三浦保環境省特別賞受賞、平成19年度には愛媛県藻場づくり活動推進事業費助成の適用を受け、平成20年度には愛媛県経済同友会表彰を受けている。ご期待下さい。

このように「海藻で海の力を取り戻そう!」という動きは、政府主導のみならず、草の根レベルでも既に日本各地で展開され始めている。

北水オリジナルグッズ

オルゴール ペーパーウェイト 発売開始！！

前号にて告知した北水オリジナルグッズについての続報です。

このたび試作品の段階を経て、ついに北水オリジナルグッズ・オルゴールとペーパーウェイトが完成しました。

オルゴールは、素材にかつて水産学部で使用していたカッターの木材・ケヤキを利用したもの（シリアル番号入り、水産放浪歌バージョン 30 台、北農寮逍遥歌バージョン 20 台、税込価格 各 15,000 円）とハルニレを利用したもの（シリアル番号なし、水産放浪歌バージョン 20 台、北農寮逍遥歌バージョン 30 台、税込価格 各 13,000 円）の計 100 台限定です。

ペーパーウェイトは、カッターのオール部分の木材・ヤチダモを使用しており、100 個限定で税込価格 1,050 円となります。

それぞれ、2 月 9 日より北大交流プラザ「エルムの森」で取扱いを開始しています。"エルムの森ショップ" ホームページ (http://www.hokudai.ac.jp/goods_shop/elm.html) も合わせてご覧ください。なお、ご購入を希望される方は、(株)エルムプロジェクト（電話：0120-0656-38【フリーダイヤル】、

ファックス：011-708-0389、メール：hokudai-shop@coop.hokudai.ac.jp）へお問い合わせ願います。



オルゴール・水産放浪歌バージョン



オルゴール・北農寮逍遥歌バージョン



ペーパーウェイト



「有朋自遠方来不亦楽乎」



平成 20 年 7 月～平成 21 年 1 月、研究室を訪問された方々（敬称略）

●生物資源利用学（旧食品化学第一）

熊谷百慶（平 20 資）7/4、11/7、和根崎智（平 9 食）7/9、杵本大介（平 13 資）7/16、亀山喜明（63 食）7/29、堀井亜希（平 9 食）7/30、藤田太陽（平 18 資）8/4、門田健二（57 食）8/9、岩倉和彦（平 18 資）8/18、12/8、島谷達也（平 11 資）9/22、柞木田善治（49 食）10/6、馬場誠子（平 17 シ）10/9、佐野優（平 18 資）、内藤裕久（平 18 資）、小林由紀子（平 19 資）11/3、平野次彦（57 食）11/14、眞鍋信一郎（平 14 資）11/24、門馬大介（平 18 資）12/12、柝澤馨（平 7 食）1/13、鈴木 忍（50 食）1/29

●海洋生物学（旧浮遊生物学）

山田奈央（平 16 海）、望月万美子（平 10 ヲ）7/1、宮崎和貴（平 10 ヲ）7/2、山田雄一郎（平 9 ヲ）7/4、藪熙（特別）7/10、平川和正（48 修増）8/14、吉野生壮（37 ヲ）、平本紀久雄（37 ヲ）、小関賢悦（37 ヲ）、河村章人（37 ヲ）9/8、富田洋加（平 8 ヲ）9/15、大森信（35 ヲ）9/23、小川法章（29 ヲ）、小高洋（29 ヲ）10/15、國分瓦彦（平 15 シ）1/16

●資源生産学（旧漁場学）

松浦哲平（平 17 生）、増田和哲（平 11 生）7/1、伊藤（柏木）恭子（平 11 生）、谷口（井上）喜美（平 11 生）7/24、清水晶子（平 11 生）10/1、内田隆裕（49 ギ）10/21、高木正夫（62 ギ）10/22、小野達夫（平元ギ）10/24、鈴木一幸（40 ギ）11/21、片渕正志（平 9 ギ）11/25、横山信一（58 ギ）1/16

●海洋生物工学（旧水産高分子化学）

豊口敏之（平元化）7/9、花松久寿（平 19 資）10/6、横谷亮（平 13 資）10/15、1/7、山本紗代（平 16 資）12/17

●育種生物学（旧水産植物学）

一木重夫（平 8 ヲ）10/6、高松慎吾（平 20 生）12/8